

新基地建設反対名護共同センターニュース

「歴史に残る魂の政治家」「県民が遺志を継ぐ」 翁長雄志さんを偲ぶ会に各界から 900 人参列



翁長雄志前知事の1周年忌に合わせ「翁長さんを偲ぶ会」(同実行委員会主催)が22日、豊見城市内で開かれ900人の県民が列席、故人の功績をたたえるところに、黙とうを捧げ冥福を祈りました。保守・革新を問わず多くの政治家や経済人、各層の人々で座席が埋め尽くされました。辺野古新基地建設反対、沖縄の経済発展などへ文字通り命を犠牲にして尽くした「魂の政治家」を惜しみ献花し、手を合わせました。終了後、別室で懇談会が行われ、多くの関係者が翁長さんとのエピソードを披露し、多くの参列者が「翁長さんの遺志を継ぐ」と決意を新たにしました。

「誇りある豊かさ」へ県民の心一つにした

「辺野古新基地建設は頓挫する」

ヘリ基地反対協が北上田氏講師に学習会
ヘリ基地反対協は22日、元土木技師で平和市民連絡会の北上田毅さん(写真)を講師に学習会を名護市内で開き38人が参加しました。北上田さんは、「大浦湾は想像以上に深刻な軟弱地盤があり、世界でも前例のない海面下90mまでの地盤改良工事が求められる」。「玉城デニー知事は設計変更申請を承認せず、工事は頓挫する」と90分にわたり詳しく解説しました。ある参加者は「埋立が続き悔しい思いをしていたが、焦っているのは政府・防衛局の方だと分かった。あきらめず現場でのたたかいを強めることが大事だ」と話していました。



北上田氏



県民の団結を訴えた政治家

呉屋守将実行委員長(金秀グループ会長)は「瀬長亀次郎、西銘順治の両氏と並ぶ沖縄の歴史に残る政治家だ。『イデオロギーよりアイデンティティ』と県民の団結を訴えた政治家だ」と挨拶。

思いを受け継ぎ全身全霊で

玉城デニー知事は「辺野古新基地問題や基地負担の軽減、子どもの貧困問題など翁長さんの思いを受け継ぎ、沖縄が抱える課題の解決に全身全霊で取り組む」と誓いました。

県民の思い伝わらない悲しみ

翁長さんの妻・樹子さんは「知事になって心から笑っているのを見たことがない気がする。怒りよりも沖縄の人の思いが(政府に)伝わらない悲しみが大きかった」と吐露しつつも、参列者に感謝を表しました。

県議選で与党安定過半数と共産党議席の前進を！

参院選の成果と教訓生かそう
県共産党と後援会が決起集会
26日、「県議選勝利・党勢拡大 決起集会」を那覇市内で開きました。
鶴岡賢治県委員長代理は党創立97周年の志位委員長記念講演の要旨を説明。「国政レベルでの歴史的選挙協力ができた二つの源流」に「新しい市民運動」と「オール沖縄のたたかい」が指摘されたことを確信に、来年6月の県議選で与党の安定過半数と共産党の7人以上の議席確保をめざして党勢拡大と後援会活動の再開を呼びかけました。
県議候補6人を第1次発表
県議候補第1次分の次の6人が発表され、出席者が決意を表明しました。
渡久地修、比嘉瑞己(いずれも現・那覇市区)、西銘純恵(現・浦添市区)、玉城武光(現・島尻・南城市区)、瀬長美佐雄(現・豊見城市区)、島袋恵祐(新・沖縄市区、嘉陽県議の後継)。
他に糸満市区の候補を至急決定する。
集会では赤嶺政賢委員長・衆院議員が、この4年間の市民と野党共闘の劇的で感動的に進化した実態と沖縄県民の果たした役割を報告しました。



最後に全員で「団結頑張ろう！」を三唱しました。